

二〇二四年度

上宮学園中学校入学考査問題（二次入試一般学力型午前）

国語

（注意）

- （1）この問題用紙は、「開始」の放送があるまで開いてはいけません。
- （2）問題は 一 から 三 まであります。試験時間は五十分です。
- （3）解答用紙は別に一枚あります。
- （4）解答用紙には、必ず受験番号・名前を記入しなさい。
- （5）「終了」の放送で、筆記用具を置きなさい。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

小学六年生の陽菜子は、母から「女の子だから」という理由で家の手伝いをするよう言われていたが、兄は何もしなくてよいということに納得のいかない日々を過ごしていた。あるとき、その不満を母にぶつけると、母は自分がまちがっていたと言ってくれた。

つぎの朝、六時半に陽菜子とお母さんが家につくと、お兄ちゃんが先に帰ってきていた。

「颯太、もう帰ってきたの？」

お母さんがおどろいた。

「颯太の学校は今日は休みでしょう。もう少しゆっくり帰ってくるって思った。」

「いや、今からまた出かける。今日遊園地に行くことになったんだ。平日だから、すいてるかもしれないって話になってき。それで早朝にカイサンして、またすぐ集合。」

「じゃ、すぐ出るの？」

「できるだけ早く。だから早く朝ごはんにして。」

「わかった。ちょっと待っててね。」

お母さんは荷物を置くと、急いで台所に行く。

陽菜子は自分の部屋に入った。

この部屋を空けていたのはたったの一日だ。でも、もっと長い時間がたった気がする。机の上につまれているテキストやノートもなつかしく感じる。

そのとき、お母さんの大声がした。

「陽菜子、パンをトースターに入れて！」

陽菜子が台所に行くと、お母さんが早口でいう。

「トースターに入れたら、<sup>い</sup>レイゾウ庫のヨーグルトを出して。あと紅茶も三ついれといて。」

お兄ちゃんを見ると、ソファーにすわっている。またすぐ出かけるといったわりには、<sup>う</sup>ジュンビりするようすもなく、テレビを  
見

陽菜子はむっとして、お母さんの顔を見た。でもお母さんはなにも気がついていない。野菜をゆでながら急いで卵をいためている。

昨日、陽菜子の気持ちをわかってくれたんじゃないのか。

「お兄ちゃんは、どうして手伝わなくていいの？」

「えっ。」

お母さんが **B** して陽菜子を見た。それから<sup>①</sup>はっと気がついた表情になった。

「そうか、そうだった。」

そのときちょうど、お兄ちゃんがこちらを見た。陽菜子とお母さんの会話がきこえたのかと思ったら、ちがった。

「このぶらぶらしているやつ、じゃまなんだけど。もう乾<sup>かわ</sup>いてんじゃないの。」

お兄ちゃんはそういって、天井から干されている洗濯物<sup>せんたく</sup>をゆびさす。昨日、お母さんが出かける前に洗濯して干していったのだろう。

「じゃあ颯太がおろしてたたんで。」

お母さんが強くいった。

「えっ、おれが？」

「わたしたちは今、朝食を用意しているのよ。」

「えーっ。」

お兄ちゃんは不服そうな顔をしたが、しぶしぶ洗濯物をおろし、たたみはじめた。見ると、『洋服屋さんたたみ』どころか四角くもない、ただ丸めるようにしている。

そのあいだに陽菜子とお母さんは、トーストとスクランブルエッグ、アスパラとトマトのサラダとヨーグルトを用意した。

時計は、ちょうど七時になったところで、いつもの朝よりだいぶ早い。陽菜子は **C** してゆっくり食べはじめた。

お兄ちゃんも食べはじめたが、まだ不満そうだった。

「なんか最近へんだよな。陽菜子がどうせなにかいってるんだろな。このあいだも『自分でやればいいじゃん』とかいってたし。」

<sup>a</sup> きこえよがしに、ぶつぶついつている。

「でも本当におかしいよ。逆に、どうしてお兄ちゃんはやらなくていいと思うわけ？」

陽菜子がいいかえすと、お兄ちゃんが陽菜子をにらんだ。**ア**

「おまえは野球部みたいな、しぼりのきつい運動部に入ったことあるのか？ おれはおまえみたいにひまじゃないんだからな。」

「わたしだって勉強しなきゃいけないんだよ。」

「塾じゅくに通ってるだけだろ。おれは学校も遠いし、毎日部活があるし、休日も試合や練習試合があるし。今日みたいな自由な休日って、すごくめずらしいんだから。」

「でも、そういう時間の問題だけじゃないよね。」

陽菜子は考えながらいった。

「お兄ちゃんは野球とか勉強とか通学とか時間がないというのもあるけど、**X** ってこともあるよね。<sup>②</sup> お兄ちゃんはお風呂掃ふるそう

除じしかいわれないけど、わたしは小さいときからいろいろやらされてきたんだよ。それっておかしい。公平じゃないよ。」

「そんな、公平とかって知らないよ。おれがそうしたんじゃないし。」

お母さんが口をひらいた。

「ごめんね。それはお母さんのせい。わたしがまちがってたの。」

「じゃあ、おれにいつてくるなよ。おれは現実的にむりなことはむりだから。」

お母さんがお兄ちゃんを見た。

「どうしてもできないときはしかたがないよ。だけど、それを当然だと思わないで。それにわたし、別の仕事をさがそうと思ってるし、勉強も始めるかもしれない。③

「じゃあ、お母さんができる範囲はんい内で適当にやればいいじゃん。なんだかんだいったって家のことはお母さんの仕事だろ。」

陽菜子は D した。ちがう、なんかちがう。

「あのさ、ごはんってだれでも食べるよね。食べたからお皿よこだって汚れるよね。服よこだってみんな着るし、部屋だってみんな使うし。だから本当は、みんなでごはんを作ってお皿を洗って洗濯も掃除もするものなんじゃないの。」

お兄ちゃんは一瞬いつしゆん、ぼかんとした。

が、すぐにまた不機嫌ふきげんな表情になった。「イ」

「はいはい、ごりっぱな主張で陽菜子はえらいです。④でも、お父さんにもこの話をしろよ。陽菜子の論理でいけば、お父さんだってやらなきゃいけないんだからな。お父さんもびっくりするんじゃないの。めっちゃめっちゃ働いてるのに、家事もさせるのかよって。」

「そうね、わたしがいうわ。」

お母さんがうなずいた。

「お父さんにもできることはやってもらいたいし、できなくても、⑤わかってもらいたいから。」

お兄ちゃんは今度はあきれたようにお母さんを見た。

「いったい、なんなんだよ。」

お兄ちゃんはとっぜん猛スピードで食べはじめた。「ウ」

陽菜子はそれを見て気がついた。そういえば昨晩はお風呂に入っていない。わたしも早く食べてシャワーをアびたい。

二人が猛然と食べているなか、お母さんだけ、まだ考えこむような顔をしてつぶやく。

「まちがってたわたしがいうのも**b**図々しいけど、大人ってけっこうまちがうの。」

「知ってるよ。」

陽菜子はすぐにいった。お兄ちゃんもうなずく。「エ」

「そんなの常識だ。」

「そうなんだけど、大人になると自分はまちがってない気がするの。そして忘れてしまう。」

「じゃ、わたしはおぼえておく。」

陽菜子がいうと、お兄ちゃんは、

「おれだって絶対、忘れないぜ。」

と、最後のトーストを口に押しこんだ。

(魚住 直子『いいたいことがあります!』による)

問1 ——線部あくえのカタカナを、それぞれ漢字に直して答えなさい。

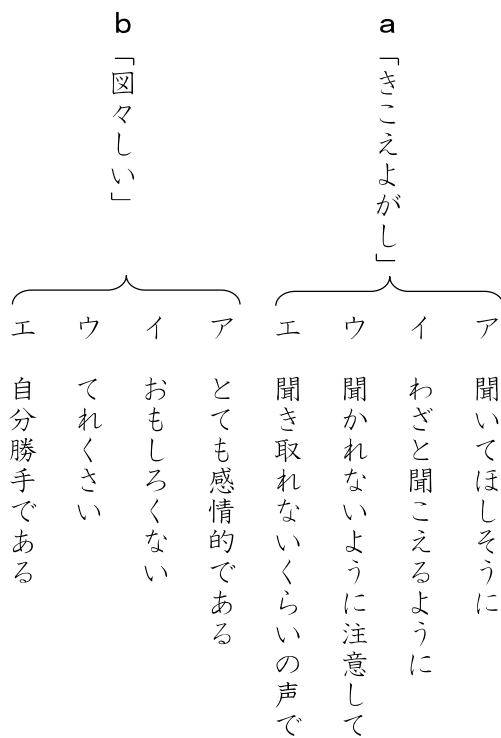
問2 文中の **A** **D** に入る言葉としてふさわしいものを、それぞれ次の中から一つずつ選んで、記号で答えなさい。(一語一回に限りません。)

ア ふらっと                      イ てきばきと                      ウ きよとんと

エ むかっと                      オ ぼうっと                      カ ぼっと

問3 — 線部①「はっと気がついた表情になった」とありますが、お母さんはどのようなことに気がついたのですか。「無意識」という言葉を必ず使って、**三十字以内**で答えなさい。(句読点なども一字に数えます。)

問4 — 線部 a 「きこえよがし」・ b 「図々しい」の文中での意味として**ふさわしいもの**を、それぞれ次の中から一つずつ選んで、記号で答えなさい。



問5 文中の **X** に入る言葉として**ふさわしいもの**を、次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 下手だから、やらない方がよかった
- イ 男だから、やらなくてよかった
- ウ 休日が少ないから、やる必要がなかった
- エ 運動部だから、やらずにすんだ

問6 — 線部②「お兄ちゃんはお風呂掃除しかいわれない」とありますが、お兄ちゃんがお風呂掃除以外の家事に慣れていない様子が書かれている部分を文中から**ひと続きの二文**で探し、**最初と最後の五字**をぬき出して答えなさい。(句読点なども一字に数えます。)

問7 — 線部③「そしたらわたしだって時間がなくなるよ」とありますが、お母さんはどのようなことを言いたいのですか。その内容としてふさわしいものを、次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 今まで自分や陽菜子は女だからという理由だけでずっとがまんさせられてきたので、今後は家事をするつもりがないということ。
- イ お母さんも仕事や勉強でいそがしくなる可能性があるが、これまで以上に家事をがんばるつもりだから安心なさいということ。
- ウ 家事以外にやるべきことややりたいことがあるのはだれも同じであり、女性ばかりに家事を押しつけるのはおかしいということ。
- エ できない理由ばかり並べ立てるのではなく、お母さんのように自分の時間を後回しにしても家事を手伝ってほしいということ。

問8 — 線部④「でも、お父さんにもこの話をしろよ」とありますが、お兄ちゃんがこのように言う理由としてふさわしいものを、次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 陽菜子がお父さんに厳しく叱られることで、陽菜子の主張が論理的にまちがっていると気づいてほしいから。
- イ お母さんが陽菜子といっしょになって自分を責めるので、お父さんになぐさめてほしいと思っているから。
- ウ わが家が家族みんなでごはんを作って洗濯も掃除もするような家庭になることをお父さんも望んでいるから。
- エ 家事までしたくないという気持ちから、お父さんが味方になってくれることを期待しているから。

問9 — 線部⑤「わかってもらいたい」とありますが、お母さんはお父さんにどう考えてほしいのですか。それを説明した次の文のなさい。(句読点なども一字に数えます。)

- |   |   |
|---|---|
| 1 | 2 |
| 1 | 1 |
| 2 | 2 |
- は五字、は九字で文中からぬき出して、それぞれ答えなさい。

仕事などでいそがしくて 1 という理由で、お父さんが家事分担していない状況じようぎょうを 2 ほしい。

問10 次の文を本文に入れるとしたらどこに入りますか。文中の「ア」く「エ」から一つ選んで、記号で答えなさい。

この場から一刻でも早く離れようとするように。



一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

わたしたちが「生きている」ってどういうことなのだろうということをもっとく忘れて行動をし始めると、体はうまくはたらかなくなりま  
す。それは、生きているからこそ存在する「いのち」や「心」とってあぶないことになります。では、生きているということを忘れた行動とは  
なにか。それを考えてみましょう。

ここでまた機械と人間をくらべてみます。機械にはなにをするか、目的があります。自動車なら、人や物を運ぶということ、その目的を最  
も効率よく行なえる機械がよい機械です。いっぽう、わたしたち人間は、まず「自分自身が生きること」がたいせつです。もちろん、生きるこ  
との中には、人に親切にするとか、世の中の役に立つ道具を発明するとかいう、それぞれの人の生き方、別のいい方をするなら目的がありま  
すけれど。

A 機械は、存在することそのものに意味があるのではなく、行なうはたらきが重要なのですが、わたしたち人間の場合、  
存在することそのものにまずたいせつな意味があるのです。これはとてもたいせつなことですので、よく考えてください。なにができるかと  
か、なにをするかという前に、「いること」に意味があるのは生きものだけでしょう。お友だちといっしょにいるときも、それを忘れないでく  
ださい。「いること」がたいせつなんだということ。もちろん生きていく中でなにをするかということはたいせつですが、それは人それぞれ。  
まず「いること」のたいせつさが先です。

② このような機械とわたしたちのちがいを具体的に知るには、なにに注目すればよいのでしょうか。わたしはそれは「時間」だと考えています。  
機械の場合、  
X のが、よい機械です。現代は科学技術文明の時代ですから、どんどんよい機械が発明され、時間を  
かけないように、かけないようにする方向に動いています。日本各地にジェット機が飛び、1、2時間あればどこへでも行けるようになり  
ました。ベンリです。

B 生きものはどうでしょう。③ わたしたちは食事をします。自動車にガソリンを入れるのとおなじです。でも、食物はそれだけの  
ものでしょうか。今日はなにを食べようか。まず、これを考えるのが楽しみです。実はわたしは今日、お友だちが市民農園でつくったじゃが  
いもで肉じゃがをつくり、家族にお友だちの話をしながらいただきました。おいしかったし、楽しかった。これにはたくさんさんの時間がかかっ  
た。

ています。畑でのじゃがいもづくりから考えたら、大変な手間です。でもその友だちは、畑仕事をしたり、そこで収穫しゅうかくした野菜を知人におすそわけすることが楽しくて、会社での仕事をする力がそこから出てくると思っています。料理や食事はどれもすべて「生きている」ことにつながり、それをたいせつにすることは、わたしたちが存在することの一つの意味なのです。

楽しみながら食べれば、体は自然にしっかりとほたらくしてくれますし、心もユタいかになります。もし、ここに効率よくという考え方を入れて、畑での作業も料理も切りスうて、すべてをお金ですませるような生活にしたら、ベンリだけれど、そのぶん、さびしいことや失うものも多いのではないのでしょうか。

すでに何度もいったように、いのちや心は「これです」といってとり出せるものではありませんが、「たしかにそれがあるなあ」「わたしたちにとってそれはたいせつなものだなあ」と実感することはできます。その実感の一つが、日常の生活をていねいに暮らし、そこで過ぎていく時間を心に止めることだと思います。

**C**、今の社会はそこにカチえを認めない傾向けいこうがあります。早くできることがよいというカチです。時間をかけて自分たちで食べものをつくるのは止めて、できあがったものを買えばいいじゃないか。お金さえあればそれはできるよ、という考え方です。日本の国は⑤その道みちを選んだので、食糧しょくりょう自給率が40%という低いものになり、どんな人がどんなふうにつくったのかわからない食べものを口にするようになりました。たしかに効率はよいかもしれませんが、でも、本当にこれでよいのでしょうか。

わたしたちが生きていることは、⑥時間をつむぐことであるのに、毎日の暮らしの中で必要な時間をたいせつにしない社会になってきたために、体の中でいのちや心が悲鳴をあげているような気がしてなりません。

(中村 桂子『あそぶ 12歳さいの生命誌』による)

問1 — 線部①「の」と同じ働きものを、次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 毎日の習慣でラジオ体操をしている。
- イ 友人の教えてくれた本を読んできた。
- ウ 台の上に置いてある本はほくのだよ。
- エ ねえ、いつになったら勉強をするの。

問2 文中の A } C に入る言葉としてふさわしいものを、それぞれ次の中から一つずつ選んで、記号で答えなさい。(一語一回に限ります。)

- ア さらに           イ たとえば           ウ ところが
- エ つまり           オ では           カ だから

問3 — 線部②「機械とわたしたちのちがい」とありますが、筆者の考える「ちがい」とはどのようなものですか。その内容としてふさわしいものを、次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 機械はそこにあることが大事だが、わたしたちは何をなしとげてきたかが問題になる。
- イ 機械は何をするかがたいせつだが、わたしたちは存在していることそのものに意味がある。
- ウ 機械はどんなはたらきをするかに注目が集まるが、わたしたちの行動は注目されない。
- エ 機械は目的を達成できるかが重要視されるが、わたしたちはその場で役立つかが重要視される。

問4 文中の X に入る言葉としてふさわしいものを、次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア だれが使ってもおなじように目的を達する
- イ 完成までの過程を楽しんで目的を達する
- ウ どれだけ時間がかかっても目的を達する
- エ できるだけ時間をかけずに目的を達する

問5 — 線部あくえのカタカナを、それぞれ漢字に直して答えなさい。

問6 — 線部③「わたしたちは食事をします」とありますが、筆者は食事についてどのような考えを持っていますか。その内容としてふさわしいものを、次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 人間にとって食事をすることは、自動車にガソリンを入れるのとおなじようにできるだけ無駄むだのないようにするのが大事である。

イ 人間にとって食事をすることは、できるだけ品質の良いものを体に取り入れて活動していくために必要不可欠である。

ウ 人間にとって食事をすることは、時間や手間をかけたものを食べることで自分が存在する意味につながるたいせつな活動である。

エ 人間にとって食事をすることは、お金と引きかえに必要最低限のエネルギーを手に入れるための行動である。

問7 — 線部④「農園」と同じ成り立ちになっている熟語を、次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 温暖      イ 進退      ウ 納品      エ 急病

問8 — 線部⑤「その道」とありますが、どのような道のことを指していますか。それを説明した次の文の1は四字、2は十一字で文中からぬき出して、それぞれ答えなさい。(句読点なども一字に数えます。)

食糧を	1	2
	つくりだし、かつ、	ことは可能だと考える道。

問9 — 線部⑥「時間をつぶぐこと」とありますが、これはどういうことですか。三十字以内で答えなさい。(句読点なども一字に数えます。)

三

次の1〜10の（ ）に漢字一字を入れ、下の意味に合うように慣用句やことわざを完成させなさい。

- 1 ( ) がすべる……秘密などをうっかりしゃべる。
- 2 ( ) がば回れ……遠回りでも安全な道に行くのがよい。
- 3 ( ) を割ったよう……さっぱりとした性格のこと。
- 4 ( ) をつつこむ……興味をもって深く立ち入ろうとする。
- 5 ( ) に乗る……いい気になってつけあがる。
- 6 手 ( ) にかける……世話をして大切に育てる。
- 7 ( ) をつく……たくわえてあったものがすっかりなくなる。
- 8 ( ) の持ちぐされ……役に立つ立派なものを持っているのに上手に使わない。
- 9 ( ) にすえかねる……怒りをおさえることができない。がまんならない。
- 10 かわいい子には ( ) をさせよ……大事な子どもにこそ、世の中のつらさを経験させるべきだということ。